

社会

ダイハツグループは、軽自動車を中心としたクルマづくりを行っています。その中で、製品の品質や性能、安全・安心に向けた取り組みはもちろん、人権やダイバーシティ&インクルージョンなど人に関わる取り組み、さらには、さまざまな社会貢献活動など、社会を良くするための取り組みを多彩に行っています。

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

SECTION

5

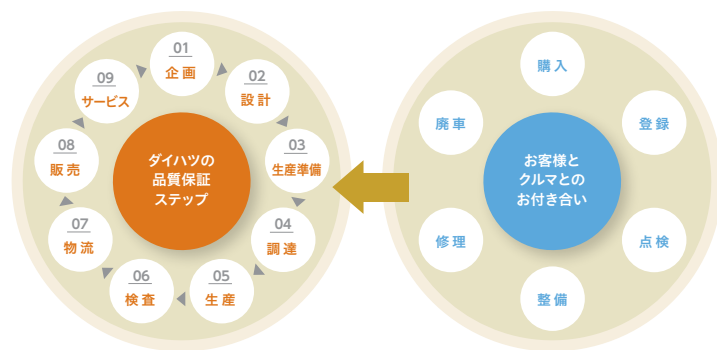


基本的な考え方

お客様にとって、商品・サービスの品質が満足かつ信頼できるものであり、長く使えることを保証するためには、企画・設計から調達、生産、検査、物流、販売、サービスまで、すべてのプロセスが「お客様の立場」で実行されるものでなければなりません。お客様とクルマとのお付き合いは、ご購入の時から始まり、昼夜・季節・天候・道路を問わず、毎日の通勤、仕事、買い物、休日のドライブ、レジャーなどあらゆる生活の場面でお客様と密接したものです。その間、お客様とダイハツには、長く使っていただくための点検、整備、修理などたくさんの接点があります。

ダイハツは、こうしたお客様とクルマが織り成すすべてのシーンから情報を集め、各プロセスにおいて「お客様の期待」「お客様のうれしさ」を従業員一人ひとりが考え、品質に反映させることを大切にしています。

商品・サービスをつくり込むプロセス



企画・設計での取り組み

基本的な考え方

企画・設計プロセスでは、くるま開発本部内に品質に特化した組織であるQCT（Quality Control Center）を設け、改善活動を推進しています。

取り組み

- QCTに所属する技術者が日々販売会社やお客様のもとに出向いて自ら不具合を確認しています。そして、自前の解析装置で原因の究明と対策を施し、スピーディーに企画・設計に反映させています。



お客様のもとに出向いての車両確認

調達での取り組み

基本的な考え方

部品や設備などの調達においては、社内で策定した「部品仕入先評価及び管理要領」「設備及び主副資材等取引先管理評価要領」に基づいて取引先様を適正に評価・管理し、品質の確保と向上を図っています。

取り組み

- 新規取引先様に対しては、経営状態や技術力、品質管理体制を調達担当者が調査し、必要に応じて現地確認を実施して取引の可否を判定しています。
- 既存取引先様に関しては、年に一度、当年度取引のあった全取引先様に対して継続審査を実施して品質や安全性などを評価し、取引継続の是非を社内の審議会で判断しています。
- 品質保証部や工場の車両品質管理部が日常的に取引先様の製造工程確認を実施し、取引先様と協働で品質改善などを計画・実施しています。

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス

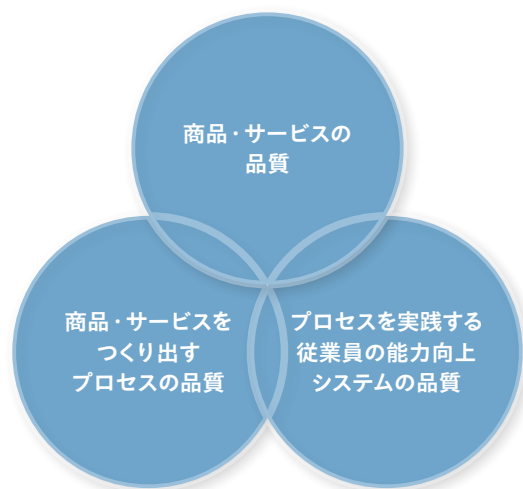
生産での取り組み

基本的な考え方

直接部門のモノづくりの現場においては、仕事に携わる一人ひとりが責任を持って自らの工程を完結させ、工程内で品質を保証していく「自工程完結」を徹底しています。間接部門においても、自工程完結の考え方で、自業務の中で品質を確保するよう取り組んでいます。さらに、従業員が参画する会議において、開始時と終了時に「品質唱和」を行い、日常的に品質に対する意識を高めています。

品質の考え方

お客様のご満足と信頼を常に最優先とし、この3つの品質を持続的に向上させる取り組みと位置づけています。



品質に関する体制

日常の品質管理	- 各工場で毎日「品質朝会」を実施 - 管理・監督者が品質状況を確認し、品質の維持・管理に取り組む
月次の品質改善会議	- 月1回「工場品質会議」を開催 - 品質管理部門責任者が議長を務め、工程内や出荷後の品質問題・部材不具合の対策内容・状況を工場長も含めて確認
出荷後の不具合対応	- 品質保証担当部門が不具合情報の解析を担当 - 重大事案は品質保証部長が議長の会議で検討し、品質担当本部長が議長の上位会議でリコール要否を審議

取り組み

- 品質保証活動のさらなる強化に向けて、毎年1回以上、内部監査を実施しています。内部監査では、品質マネジメントシステムに関する国際規格の考え方に基づき、社内外を取り巻く環境やニーズの変化も捉えて監査ポイントを明確にして実施し、各部署の品質保証活動の改善を図っています。日本市場向けの商品を生産しているインドネシアのADM社においても、国内と同様の監査を行っています。
- 製造工程における品質の維持・管理・保証のために、IoT^{※1}、AI（人工知能）を活用して、設備の状態を傾向管理することや、カメラを使って仕様や出来栄の自動判定をするなど、安定した品質確保につなげています。

- 不具合件数については、前日からの増減を定例で絶えず監視し、問題の早期発覚と改善に努めています。
- 取引先様から供給される部品については、設計、調達、品質管理の各部門が品質基準を満たしていることを確認し、量産立ち上げを判断しています。
- 日常的に取引先様からデータを入手して部品の出来栄を確認し、必要があれば改善を要請して品質の維持向上に取り組んでいます。
- 供給される部品については、トレーサビリティにより車両とひもづけすることで、市場からの情報で把握した製造に関する品質問題を速やかに工場にフィードバックする仕組み・体制を構築しています。
- 品質向上のための能力を養うトレーニングの場として「品質道場」を各工場に設置しています。今後、CASE^{※2}に象徴される自動車の進化に対応できる人材の育成にも取り組み、品質保証体制をさらに進化させていきます。

※1 Internet of Things：インターネットに接続されていなかった機器、設備などをインターネットを通して相互に情報交換する仕組み
 ※2 CASE：Connected（コネクテッド）、Autonomous/Automated（自動化）、Shared（シェアリング）、Electric（電動化）の頭文字をとった造語

ダイハツの品質活動はトヨタグループ内でも評価されており、トヨタ品質向上活動表彰において「品質管理優秀賞」などを受賞しています。



SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス

検査での取り組み

基本的な考え方

ダイハツは、道路運送車両法に基づいて自動車メーカーに義務づけられている、生産工場における車両の完成検査の品質向上に努めています。

取り組み

- ダイハツでは、顔認証システムを活用して、有資格者のみが検査を行うことができるようにすべての工場に導入しています。登録した顔情報と作業者の顔画像を照合し、無資格者による完成検査を防止しています。あわせて、完成検査データは入力後にロックをかけ、不正防止につなげています。



車両1台ごとの検査結果と3D顔データで登録された検査員の履歴をすべて残すことにより、厳格な検査を保証しています

物流での取り組み

基本的な考え方

ダイハツ車をお客様のもとにお届けするまでの安全かつ品質を確保する取り組みを行っています。

取り組み

- すべてのダイハツ車を生産工場から販売店舗まで、独自の輸送基準を設定しお届けしています。
- 輸送基地構内での作業や車両の取り扱い、輸送手続き、さらには災害や事故発生時の対応法まで、ルールが細かく示されたマニュアルを整備し、完成車輸送に携わる従業員すべてに徹底することで、品質の維持・管理を図っています。

販売・サービスでの取り組み

基本的な考え方

ダイハツは、魅力ある商品と最良のサービスをより多くのお客様にお届けし、信頼にお応えするため、販売会社スタッフの教育に取り組んでいます。

取り組み

- 「ダイハツ販売研修センター」を中心に、技術力、接客力、商品提案力を高める幅広い研修を行い、人材育成を進めています。
- 全国の販売会社サービススタッフを対象に「ダイハツサービス技術コンクール／BP※コンクール」を定期的開催し、故障診断やメンテナンス、板金・塗装・見積りなどの技術向上につなげています。

※Body repair & Paint：板金塗装



ダイハツサービス技術コンクールの授賞式

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

従業員教育

基本的な考え方

お客様第一を実践する「人材育成」「職場の活性化」「仕事の質向上」を図るため、階層別の品質教育や品質啓発行事をはじめ、グループ会社、販売会社、取引先様とともにQC（Quality Control）活動に取り組んでいます。

取り組み

- 「オールダイハツQCサークル大会」などのサークル大会を開催しています。マレーシア、インドネシアの生産拠点も参加し、グローバルに品質改善活動の成果を共有しています。また、一般財団法人日本科学技術連盟主催のQC大会へも積極的に参加し、社外の好事例に学びながらレベル向上につなげています。



オールダイハツQCサークル大会

お客様に向けて

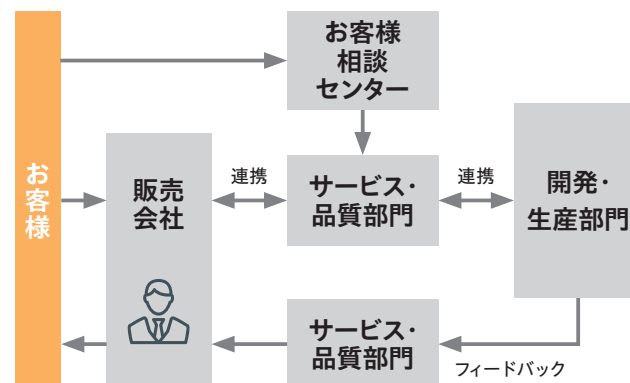
基本的な考え方

ダイハツでは、お客様に向けてのコミュニケーション手段を充実させ、お問い合わせに対しての正確な情報提供に努めています。いただいたご意見・ご要望・ご指摘などは、関連部署にフィードバックし、商品・サービスの品質改善や新たな取り組みに役立てています。

取り組み

お客様からのフィードバックの仕組み

ダイハツは、品質問題の早期発見・早期解決を目指し、ダイハツ車をご購入いただいたお客様から、ディーラーを通じて、品質に関するさまざまな声を収集するとともに、開発・生産部門にフィードバックし、ダイハツ車の品質向上に活かしています。



お客様相談窓口

お客様からのご相談は「ダイハツお客様コールセンター」で受け付け、内容に応じた情報のご提供や、ご質問の解決策などを回答しています。ダイハツお客様コールセンターでは、電話およびWEBメールのほか、チャットボット、手話通訳サービスにより、お問い合わせに対応する体制を整えています。そこでいただいたお客様からのご要望は、社内関係部署に展開し、商品・サービスの改善に反映しています。

品質不具合への対応（リコール等）

クルマを安全・安心にご使用いただくことを最優先に考え、車両に不具合が生じ、リコールが必要と判断した場合は、各国の法規に従って届出を行うとともに、対象車両のお客様に迅速に連絡を行い、無料修理を受けていただくようご案内しています。また、WEBサイトにも即座にリコール情報を掲載するほか、当局に対してはリコールの進捗具合などの必要な報告を行っています。

2025年度 リコールの状況

件数（件）	2
対象台数（千台）	641

WEB：リコール等情報

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス

ダイハツのクルマづくり

基本的な考え方

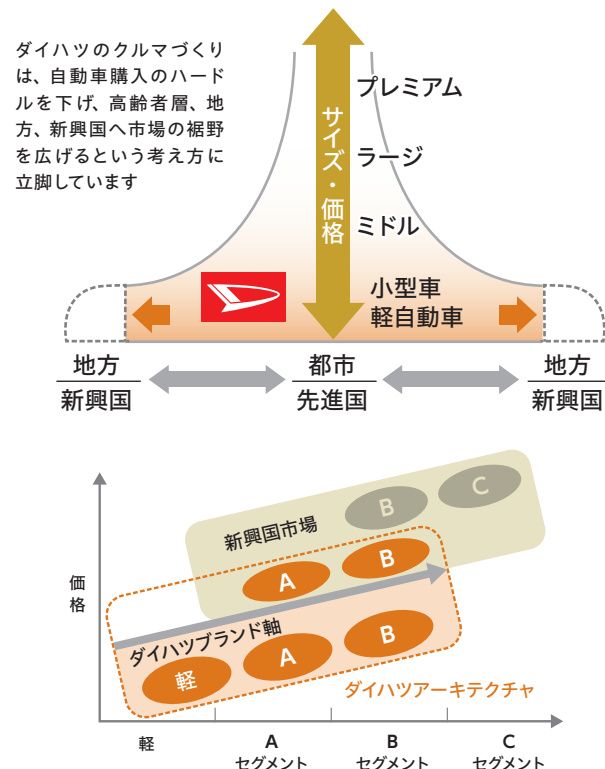
CO₂排出量を削減するうえで、まず重要なのは、走行時に必要なエネルギーそのものを小さくすることです。ダイハツは、軽量・コンパクトな車体と高効率なパワートレインを磨き上げることで、環境負荷を抑えたクルマづくりを進めています。小さいからこそ、使う材料やエネルギーを抑えながら、必要な性能を無駄なく高めることができます。今後も、電動化を含む技術進化を通じて、持続可能なコンパクトモビリティの実現に取り組んでいきます。

こうしたクルマづくりを支えるのが、「良品廉価」「最小単位を極める」「先進技術をみんなのものに」という考え方です。この考えを、企画、開発、調達、生産まで一貫して形にする基盤がDNGA（ダイハツ ニュースグローバルアーキテクチャー）です。お客様の声を起点に、本当に必要な性能や機能を見極め、軽を基点にAセグメントから新興国Bセグメントまでを共通の設計思想で開発することで、持続可能なコンパクトモビリティを追求しています。

DNGA (Daihatsu New Global Architecture)

ダイハツは「良品廉価」「最小単位を極める」「先進技術をみんなのものに」という基本思想のもと、お客様に寄り添ったクルマづくりに取り組み、自動車購入の敷居を下げ、市場の裾野を広げてきました。

その思想を実現するための新しいクルマづくりが「DNGA」です。これは「お客様の声」を起点に、企画、開発、調達、生産とクルマを開発するすべての過程において、ダイハツ独自のクルマづくりを行うための事業構造と、それを実現するための戦略までを含みます。電動化、自動運転、コネクテッドといった先進技術においても軽を基点にAセグメント、新興国市場のBセグメントまでを共通の設計思想で開発していくことで、持続可能なコンパクトモビリティを実現していきます。



車両の進化

新しい「DNGA」プラットフォームでは、サスペンションジオメトリー※を新設計し、クラスを超えた「安定感」と「乗り心地」を追求しています。さらに、電動化への対応を織り込みながら構造を合理化し、軽量化と高剛性を両立しています。限られたスペースや重量の中で全体最適を追求できることは、小さなクルマならではの強みです。ダイハツは、この強みを活かし、ダイハツらしい性能をさらに進化させていきます。

※クルマの性能に大きく影響するサスペンションの配置

パワートレインの進化

「DNGA」におけるパワートレインは、車両ごとに最適に合わせ込み、環境性能と動力性能の両立を図っています。燃焼効率を高めたエンジンや新CVT、コンパクトでシンプルなシリーズ方式のストロングHEVなどにより、小さなクルマにふさわしい効率のよい走りを目指しています。これからも、ダイハツらしいコンパクトモビリティに適した電動化技術を進化させていきます。

SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス

基本的な考え方

安全技術は、お客様が安心してダイハツ車をご利用いただくうえで不可欠であり、最も重要な基盤となるものです。特に、ダイハツが提供する軽自動車は、地域の暮らしを支える移動手段として幅広いお客様にご使用いただいているため、安全に、安心してお乗りいただけるクルマづくりが一層求められています。すべてのお客様の安全・安心な移動を支えるダイハツならではの先進技術をお求めやすい価格でお届けします。

先進技術をみんなのものに

ダイハツは「先進技術をみんなのものに」という基本思想をクルマづくりの核の一つに据えています。先進の安全技術導入にも積極的に取り組み、2012年には軽自動車として初めて衝突回避支援ブレーキをグレード標準設定するなど、スモールカー市場において先鞭をつけてきました。自動車業界がCASEに向けて進化している今、新たなクルマづくりのプラットフォームであるDNGAの思想に沿って、「予防安全」「衝突安全」「つながる安心」の3つのアプローチから、より高度な安全技術を追求しています。



SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

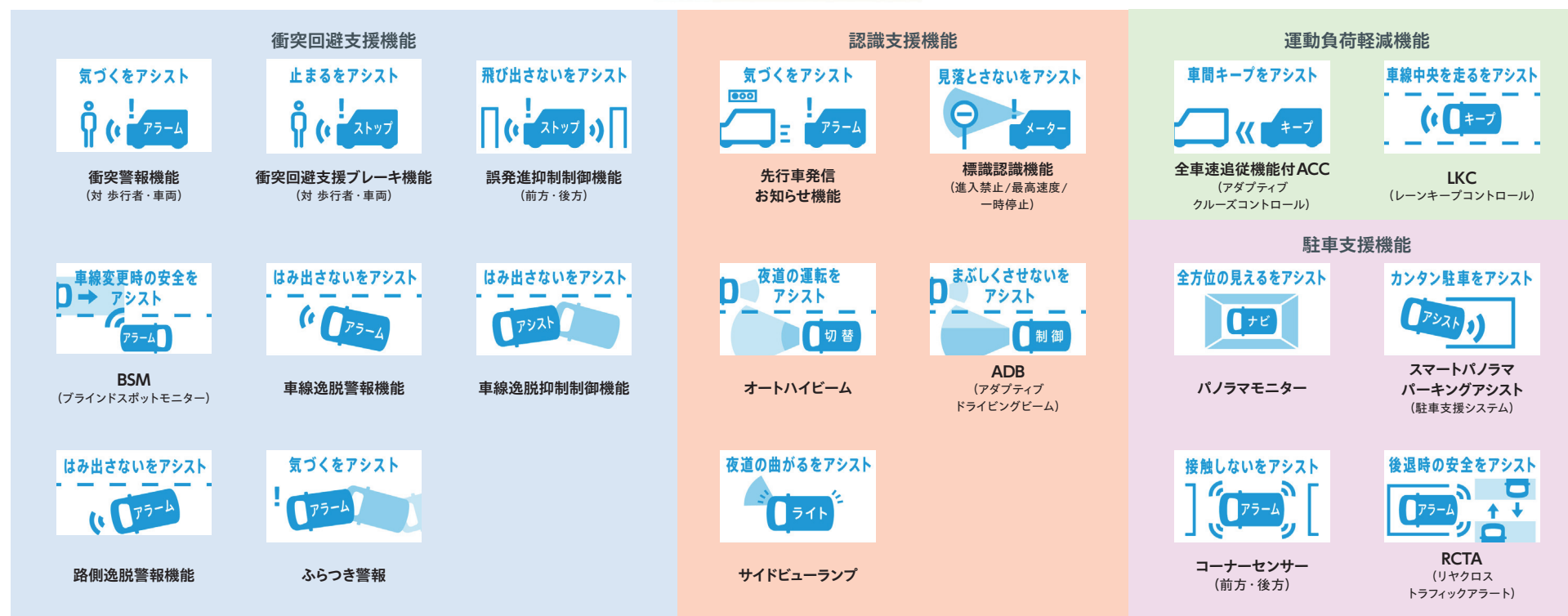
予防安全

 **WEB** : スマアシ公式サイト ダイハツの予防安全・運転支援機能

基本的な考え方

交通事故による死傷者をゼロにすることは、社会にとって究極の目標です。先行車や歩行者との衝突回避支援、車線

逸脱抑制制御、ドライバーの認識支援や負荷軽減など、さまざまな機能を「スマートアシスト」に搭載し、全方位から予防安全を追求しています。この「スマートアシスト」は、現在販売中の車種すべてに搭載されています。



SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1

ダイハツ工業とは

SECTION 2

ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3

ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4

環境

SECTION 5

社会

SECTION 6

コーポレートガバナンス

衝突安全

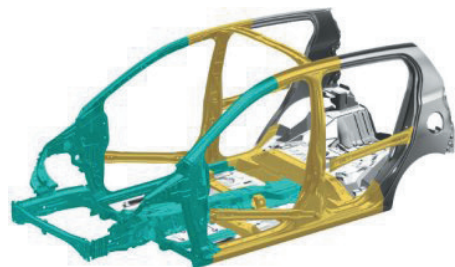
基本的な考え方

ダイハツでは、もしもの衝突事故に備えて、衝突エネルギーを吸収するボディ構造「TAF（Total Advanced Function）」や、乗員を保護する「SRSエアバッグ」などの安全技術を整備し、被害を最小限に抑えることを目指しています。

取り組み

衝突の衝撃から乗員空間を守る

ダイハツが開発したボディ構造「TAF（Total Advanced Function）」は、フロントサイドメンバーを高効率エネルギー吸収構造にするとともに、衝撃分散型ボディ構造の採用などによって、衝撃吸収性能を向上し、強固で軽量のキャビンを実現しています。国内および欧州の衝突安全基準をクリアしていることはもちろん、厳しい試験法を取り入れた衝突実験でも十分な生存空間を確保しています。



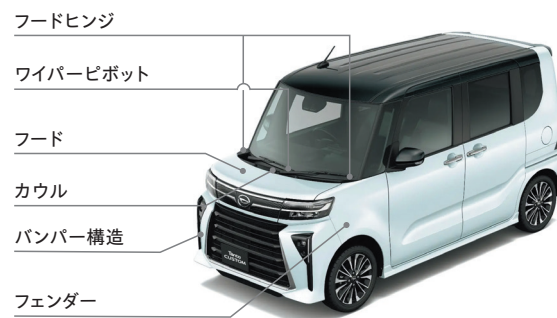
ミライース 衝突安全ボディ TAF（Total Advanced Function）

乗員への衝撃を吸収する

ダイハツ車には、前からの強い衝撃時、瞬時に膨張・収縮し、乗員の頭部、胸部への重大な損害を軽減するデュアルSRSエアバッグを全車に標準装備しています。また、車両側方からの衝突の際、衝撃を緩和するSRSサイドエアバッグ（運転席・助手席）や、乗員の頭部を保護するSRSカーテンシールドエアバッグ（前後席）もあわせて設定しています。

歩行者への衝撃を軽減する

ダイハツ全車で万が一の対人事故を考慮し、バンパー構造、フードやフェンダー、ワイパーピボットなどの各所に衝撃緩和装置・吸収スペースを設定しています。



ダイハツとあいおいニッセイ同和損保「ムーヴ キャンバス」の車両保険料に割引を適用

「ムーヴ キャンバス」はあいおいニッセイ同和損害保険株式会社が提供する「耐損傷性・修理性割引」の対象車に認定され、車両保険料の5%割引が適用されています。D&R性能の改善は、交換部品の削減による省資源化や、修理工程における環境負荷物質の排出量削減などの効果をもたらしています。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の車両保険料5%割引の対象車と認定された「ムーヴ キャンバス」

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

つながる安心

基本的な考え方

CASEというキーワードに象徴される自動車の進化に対応すべく、ダイハツはデジタル技術を活用してコネクテッドサービスの開発にも注力しています。スマートフォンを介してお客様とクルマ、お客様とダイハツをつなぐことで、安全・安心かつ快適・便利な自動車社会の実現を目指しています。

取り組み

ダイハツコネク

「ダイハツコネク」は、コネク対応車載機とスマートフォンを接続することで、お客様がクルマやダイハツとつながるサービスです。導入にあたってはお客様が長期間負担なく利用できるよう、シンプルなシステム構成とすることで、月々の基本利用料0円でのご提供を実現しました。

 WEB : ダイハツコネク

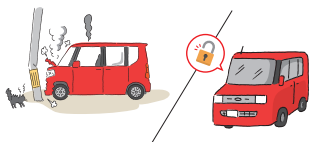
カーライフをもっと安全・快適に

ダイハツコネク



つないでサポート

事故・故障など「もしも」の時にお客様をサポート。また、ドアロック忘れなどの「うっかり」をスマホにお知らせ。



見えるドライブ

離れた場所にあるおクルマの位置や状況、ドライバーの運転を確認&お知らせ。



見えるマイカー

おクルマの位置や状況、いつ・どこに行ったかなどを記録。



つないでケア

車検・点検・メンテナンスの案内や、リコール情報をお知らせ。



安全に関する第三者評価

国内外で製造・販売している主な車種について、自動車安全性能に関する各地域の第三者評価を受け、高い評価を獲得しています。

	仕向け	第三者評価	車種名	受検年度	自動車安全性能評価
ダイハツ	国内	日本 JNCAP	タフト	2020	★★★★☆ 4
			ハイゼット カーゴ	2022	★★★★☆ 4
			ムーヴ キャンバス／ムーヴ	2022	★★★★☆ 4
			タント	2023	★★★★☆ 4
プロドゥア	海外	ASEAN NCAP	XENIA	2023	★★★☆☆ 3
			ATIVA	2020	★★★★★ 5
			ALZA	2022	★★★★★ 5
			AXIA	2023	★★★★☆ 4
			TRAZ	2025	★★★★★ 5

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

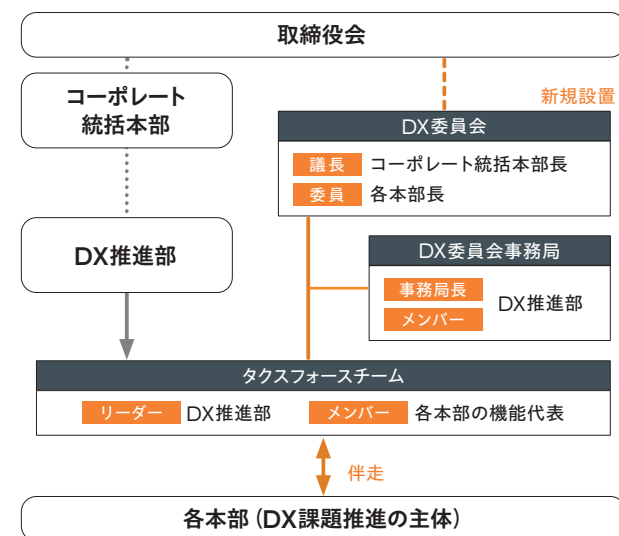
基本的な考え方

ダイハツは、「人にやさしいみんなのデジタル」をDXスローガンとして掲げ、トップダウンとボトムアップ双方向からの全社DXを推進しています。従業員自らが学び、実装することで、デジタル技術の活用による業務効率化や変革を行うとともに、各部門でデジタル活用を重点課題として管理し、経営層と共通認識を持ちながら課題解決に取り組みます。

推進体制

DX委員会が中心となり活動推進を行い、DX推進部が事務局を務めています。

DXを進める全社組織体制

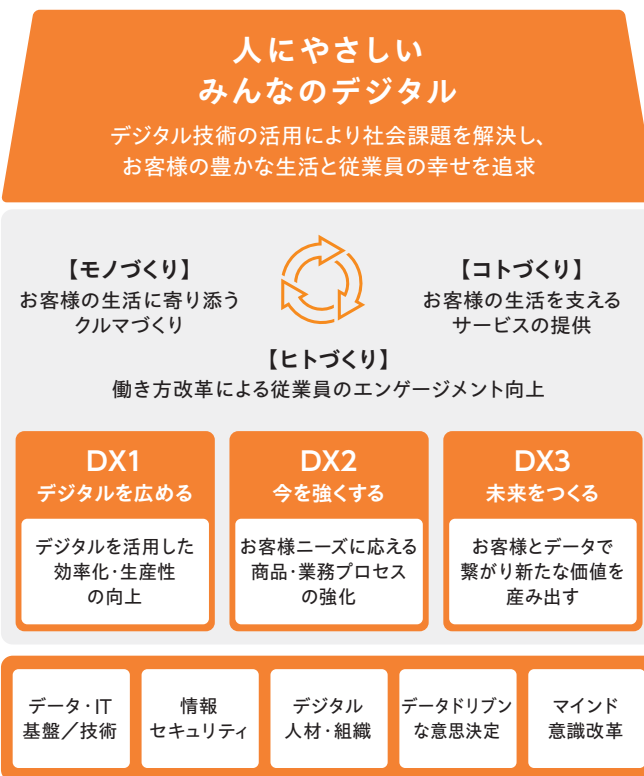


目標

デジタル技術の活用により社会課題を解決し、お客様の豊かな生活と従業員の幸せを追求する「人にやさしいみんなのデジタル」を実現

DX推進の目標は、「DXビジョンハウス」としてまとめています。

DXビジョンハウス



取り組み

DX人材の育成

2027年度までに3,000人をDX人材として育成することを目標に、従業員に対する研修を実施しています。

DX人材とは、「自らデジタルを学び、実装することができる人材。デジタル技術の活用による業務効率化や改革を行うことができる人材」です。5つの段階を設定し、「初心者向け説明会・体験会」とeラーニングを実施し、リテラシーを得る教育から育成をスタートします。その後、AIやBI、アプリ開発など専門的な教育を積み重ね、実務者、専門家を目指します。

DXに関するその他の活動

DX活用事例共有会	仕入先様・販売会社も参加する共有会
DXサロン	組織間・部署間のDXの取り組みに関する情報交換・連携イベント
ダイハツAIキャンプ	「第一線で活躍する外部ゲスト講演」「社内のAI活用成功事例の共有」「DX推進に向けて部署を超えてつながり、交流できる機会の創出」を三本柱として開催
生成AI活用	安全な環境で使える自社独自の生成AI「D-AI-hatsu Assistant」を導入し、業務に活用

WEB：ダイハツ工業株式会社 | 人にやさしい みんなのデジタル

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

基本的な考え方

ダイハツグループは、「お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする」という使命のもと、すべてのステークホルダーの人権および多様性の尊重を会社経営の重要な柱と位置づけ、国際的に認められた人権を尊重するとともに、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、人権尊重の取り組みを進めています。

本取り組みの一環として、連結子会社を含めるダイハツグループにおける人権方針を定め、これを遵守することで、役員・従業員一人ひとりが幸せに働ける職場、風土づくりに取り組むとともに、取引先様や地域社会と連携し、持続可能なサプライチェーンの確立を推進します。

ダイハツグループの人権尊重

ダイハツグループは、以下の国際的な宣言および規約等に基づく人権を尊重するとともに、「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、実践に向けて取り組みます。

- ・国際連合「世界人権宣言」
- ・国際連合「市民的及び政治的権利に関する国際規約」
- ・国際連合「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」
- ・ILO「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」

また、事業活動を行う当該国の法規制と国際的な人権規範が異なる場合は、より高い基準に準拠することに努め、相反する場合には、国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求します。

なお、本方針は、ダイハツグループで働く一人ひとりが遵守すべき、人権に関する最上位の方針として位置づけます。

また、本方針は、ダイハツグループのすべての役員・従業員に適用され、仕入先様や販売会社を含むすべてのビジネスパートナーの皆様にも、本方針を理解し、その趣旨に沿って行動していただくことを期待します。

 PDF：ダイハツグループ人権方針

GRI > 2-6, 2-23, 2-24, 3-3, 414-1

サプライチェーンの人権尊重

仕入先サステナビリティガイドライン

「仕入先サステナビリティガイドライン」では、すべての取引先様の方々に順守していただきたい項目の一つに「人権・労働」を設けています。差別撤廃や児童労働・強制労働の禁止、適正な賃金と労働時間の提供、安全で健康な労働環境づくりなどを謳っており、これらを踏まえたうえで事業活動を営むことを求めています。また、この「仕入先サステナビリティガイドライン」はサプライヤーの取引先様にも展開して実行の促進を依頼しており、サプライチェーンの隅々にまで人権に対する取り組みの普及・浸透に努めています。

 PDF：仕入先サステナビリティガイドライン

紛争鉱物への取り組み

2010年に米国で「金融規制改革法」（ドッド・フランク法）が成立し、米国上場企業に対して自社製品に含まれる紛争鉱物（タンタル、錫、タングステン、金）に関する情報開示が義務化されました。同法はコンゴ民主共和国およびその隣接国で、武装集団が児童労働や強制労働など非人道的手段による採掘で得る資金の断絶を目的としています。ダイハツはトヨタグループの一員として、責任ある鉱物調達の実現を目指し、取引先様と連携して取り組んでいます。

SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

人権に関わる教育

基本的な考え方

ダイハツはすべての従業員に対して、人権問題はもちろんのこと、差別の禁止や開かれた誠実な対話に関わる教育を実施しています。研修を通して、取引先様やお客様などダイハツの事業に関わるすべての方々の人権を尊重することはもちろん、間接的に関与・助長している人権侵害にも配慮してビジネスを行う意識を徹底させています。

取り組み

人権意識高揚のための啓発

人権をより身近に感じてもらうため、国内各拠点の全従業員を対象として、1970年代後半より毎年人権標語を募集し、12月の人権週間に表彰しています。

『全国人権週間』12月4日～10日

人権標語「全社表彰作品」選出!!

たくさんのご応募ありがとうございました！
みなさんのいろいろな想いが伝わってきました

最優秀作品

明るい職場の合言葉 感謝の心で
「ありがとう」

優秀作品

掛ける言葉にやさしさ添えて
互いに高める人権意識

見た目 価値観 得手不得手
みんな違ってみんないい

各事業所表彰作品は ⇒ [こちら](#)

さまざまな想いに触れ、一人ひとりの人権意識を高めましょう！

(お問い合わせ先) 人事部 要員・採用室

研修

教育・研修を通じ人権に対する「理解・意識」の浸透を図り、偏見による差別やハラスメント防止につなげています。また、ビジネスパートナーを含む事業活動全体の人権尊重への実践活動も行っています。

研修名	対象	概要
新入社員向け研修	新入社員	人権への正しい理解とお互いを尊重した行動を促す
コンプライアンス研修	主任以上の全昇格者 新入社員	人権侵害を防ぐ内部統制への意識を高めることを徹底。新入社員には監査役による講話を実施
ダイバーシティ研修	新任基幹職	ダイバーシティを重んじる良好な職場環境づくり

是正プロセス

あらゆる形態のハラスメント行為を含め、事業活動において人権に関する違反行為を発見した場合に相談・通報できる窓口として、「ハラスメント相談窓口」を設置、運営しています。

国内各拠点で担当部署を定め、その部署の複数の社員がハラスメント相談員として活動しています。ハラスメント相談員は、相談を受けると情報を集約してハラスメント全社総括である人事部長に報告します。その後、ハラスメント相談員と人事部、安全健康推進室が情報連携しながら、解決に向けた対応を行います。

また、労働組合各支部が設けている労働組合「なんでも相談」窓口と、監査部が運営するWEBサイト「社員の声」でも同様の相談を受け付けています。

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

基本的な考え方

性別、年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、性的指向、性自認、障がいの有無、配偶者や子の有無などの属性にかかわらず、一人ひとりが最大限に能力を発揮できる環境をつくることが、ダイハツのさらなる成長につながっていきます。ダイバーシティ&インクルージョンへの理解を促進し、誰一人取り残さない、誰もが働きがいのある企業を目指しています。

女性の活躍促進

基本的な考え方

ダイハツでは、女性のさらなる活躍や子育て世代の両立支援などを契機とし、すべての人を対象とした、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の推進に取り組んできました。

女性活躍推進法・次世代育成支援対策推進法に基づくダイハツの目標

計画期間：2025年4月～2030年3月

- ① 女性管理職数2倍（100人）（2025年度比）
- ② 管理職の所定外時間を平均20%低減（2025年度比）
- ③ 男女とも育児休業取得率100%

取り組み

生理痛体験、更年期セミナーの実施

京都（大山崎）工場では、生理痛体験・更年期セミナーを実施しました。生理痛体験では、専用装置を使って痛み的一端を体感し、その大変さへの理解を深めました。更年期セミナーでは、性別を問わず更年期にともなう心身の変化について学びました。今回の取り組みを通じて、互いの体調や不調への理解を深め、人に優しい工場づくりにつながる機会となりました。こうした取り組みを通じて、性別を問わず働き続けやすい職場づくりや両立支援の定着につなげていきます。

障がい者活躍推進

基本的な考え方

ダイハツでは、障がいのある人の雇用について、社内の全部門での受け入れの促進、ともに成長できる環境づくりを目指しています。

目標

法定雇用率：2.5%

雇用率：2.6%※

※2026年6月1日時点の目標および実績

取り組み

就労定着

- 事前面談や職場見学による採用後のミスマッチの防止
- 障がい者支援のセンターパーソンを各職場に配置
- 産業保健職や外部専門家と連携したフォロー体制

インフラ整備

- 事務・軽作業、小物梱包が可能な作業所体制を整備
- 車いす対応トイレ、休憩室、リラクゼーションルームを設置

作業所の雇用

- 特別支援学校新卒者の受け入れやパート採用を推進

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

両立支援策

基本的な考え方

仕事とプライベートの両立を支援するための制度を整備しています。

取り組み

当社の両立支援制度（一部抜粋）

育児／介護		・時間外労働の制限 ・深夜業の制限 ・所定外労働の免除 ・短時間勤務
	育児	・育児休職 ・子の看護等休暇 ・企業内保育園の設置 ・育児休職奨励金の支給
	介護	・介護休職 ・介護休暇 ・時差勤務
病気治療 不妊治療		・特別休暇の付与 ・短時間勤務
	病気治療	・療養休職
	不妊治療	・不妊治療休職
その他 （配偶者転勤／介護 など）		・アルムナイ再雇用制度（再雇用の機会付与）

短時間勤務制度

子どもが中学3年生修了時まで、短時間勤務制度を利用できます。勤務時間を4時間、5時間、6時間、7時間と細かく設定しており、各家庭の状況に応じて選択できるようにしています。

介護休職制度

ダイハツでは、要介護状態に至る家族1人につき通算2年間の介護休職を取得可能としており、分割取得にも対応することで、介護と仕事の両立を支援しています。

企業内保育園の設置

ダイハツグループ企業内保育園「だいはつのもり保育園」（大阪府池田市）を2019年より開設・運営しています。この保育園は、「みんなでつくる」をキーワードに、女性を中心としたワーキンググループによって企画され、仕事と育児の両立を図る従業員に寄り添った施設となっています。



「だいはつのもり保育園」園内

シニア従業員の活躍推進

基本的な考え方

定年を迎えた後も、社内で培った技能やノウハウを存分に発揮できるよう、65歳までの継続雇用を前提とした制度を設けています。

製造現場では誰もが働きやすい職場・ライン・工程づくりを推進しており、身体的負担の低減を図り、継続して活躍できる生産環境の整備に取り組んでいます。

取り組み

- エルゴノミクス評価（人間工学的評価）の結果に基づき、工程・設備・機器を見直しています。また、実際に作業をされる従業員の声を継続的に聞き、より働きやすい工程づくりを進めています。

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

外国人技能実習生・従業員の受け入れ

基本的な考え方

東南アジアの自動車産業の発展に寄与することを目的に、2015年より外国人技能実習生を受け入れています。

受け入れ実績

年間平均約380人(インドネシアから受け入れ)

取り組み

労働条件

技能実習制度の基本方針に則り、賃金は同職位の従業員と同程度、その他手当や休暇も待遇差を設けることなく適用しています。



生活環境

ハラル食の準備、お祈り場の設置など、実習生の宗教・文化・慣習に配慮した生活環境を整えています。

実習修了後の雇用

母国のダイハツグループ会社での人材活用および、日本国内のダイハツ販売会社にて特定技能（自動車整備）で多くの方が活躍されています。

新卒採用

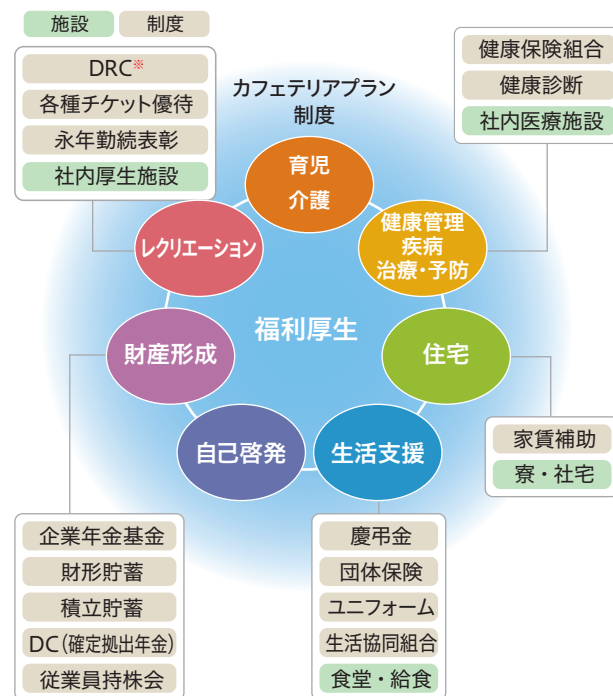
国籍に関係なく公平・公正に人材を受け入れており、外国籍従業員が各部署で活躍しています。

福利厚生

基本的な考え方

安心して働ける施設・設備の充実や、すべての世代の従業員が「あってよかった」と感じる生活応援施策の充実、多様化する個人人の嗜好に沿った選択肢の拡大に取り組んでいます。各種制度については、従業員の多様なライフステージや働き方に応じて活用できるよう整備しており、対象や運用方法についてもわかりやすい周知に努めています。

福利厚生の全体像



※DRC：ダイハツレクリエーションクラブ

取り組み

ダイハツレクリエーションクラブ (DRC)

ダイハツレクリエーションクラブ (DRC) は、社員の健康増進や親睦融和を目的とした福利厚生制度です。全社イベントや支部イベント、職場単位の交流施策、クラブ活動などを通じて、部署や拠点を越えたコミュニケーションの活性化を図っています。



ダイハツ駅伝

その他の取り組み

イベントの種類	概要	主なイベント
周年イベント	DRC周年記念で開催する全社規模の社内イベント	- ディズニー・オン・アイス - サファリリゾート姫路セントラルパーク貸切 - 京セラドーム大阪貸切 など
本部イベント	全社規模の社内イベント	- ダイハツ駅伝 - トヨタ駅伝 - 綱引き大会 - 大運動会 - eスポーツ大会 など
支部イベント	事業場（支部）単位のイベント	- サクラDEフェスタ（池2支部） - 京都フェスタ（京都支部） - 竜王フェスタ（竜王支部） - 多田祭（多田支部） - 屋形船（東京支部） - 九州開発センター×ダイハツ九州コラボ（久留米支部）
職場コミュニケーション向上施策	職場単位のイベント 1人当たり500円の補助	- ソフトボール大会 - ゲーム大会 - ボーリング大会

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1

ダイハツ工業とは

SECTION 2

ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3

ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4

環境

SECTION 5

社会

SECTION 6

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

ダイハツがこれから目指す姿は、使命である「お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする」こと。

そのためにはダイハツで働く人たちの「一人ひとりが成長し、働いてよかったと思える笑顔の会社」にしていけることが必要不可欠で、「3つのあい」を実現していくことが大切だと考えています。「3つのあい」で掲げた内容は、一見当たり前のようなことでもあります。この姿を目指し、また周囲の環境や状況が変化していく中でも変わらないものとして持ち続けなければならない観点です。「ダイハツ人事基本方針」は「3つのあい」にそれぞれひもづく形で、ダイハツとともに働く仲間と一緒に取り組んでいくべきものとして位置づけています。

職場づくり活動

役員・管理職全員を対象に、心理的安全性研修、OC（思いやりコミュニケーション）研修を実施しています。受講を通して、「幸せに働ける職場、風土づくり」のベースとなる心理的安全性のある職場環境づくり、そして具体的な活動を実践するためのコミュニケーションや1on1ミーティング※の知識やスキルをマネジメントに携わる社員全員が習得することを目指しています。

※1on1 ミーティング：メンバーの成長を支援するための1対1の定期的な短時間での対話

3つのあい

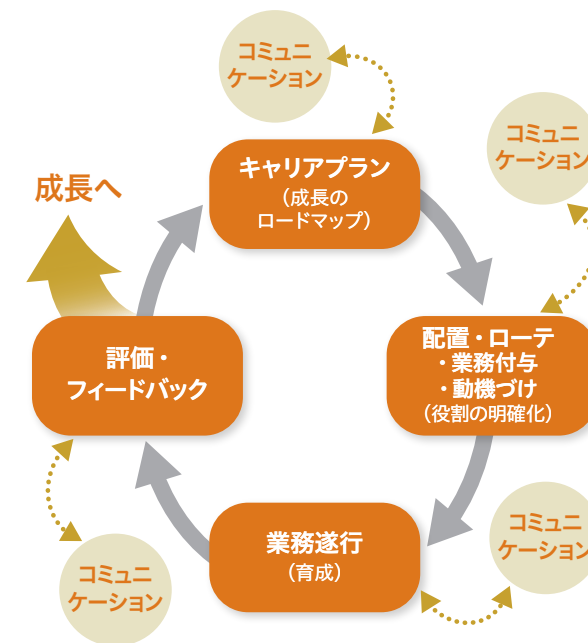
私たちは、ともに働く仲間と一緒に



従業員への評価とフィードバック

ダイハツの従業員の業務における役割・テーマは、会社方針から部・室方針に引き継ぎ、それに基づく個人目標として設定しています。一人ひとりが安心してチャレンジし成長し続けることを目指し、上司と部下のコミュニケーションをベースに、人事サイクル（成長のロードマップ策定→役割の明確化→業務を通じて育成→振り返り）を回すことで成長を支援します。こうした人事サイクルの中で、上司と部下の対話や振り返りを定期的に行い、業績やキャリア開発に関する確認と次の成長につなげています。

コミュニケーションを通じて成長を促す人事サイクル



- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

ダイハツが描くビジョンの実現に向けて、必要な資質や能力を持つ人材を国籍や性別、障がいの有無などにかかわらず、公平・公正に採用しています。「自分に限界をつくらず、志を実現するまで立ち向かえること」「あらゆる可能性を求め、枠を超えてさまざまなことに取り組めること」「多様なニーズに応えるため、世界のどこでも活躍できること」を求める人物像に掲げ、そうした姿勢を備えた人材の採用に注力しています。

近年は、1Day見学会など気軽に参加できるインターンシップなどを催した新卒採用に加え、キャリア採用や障がい者採用など、多様な人材の確保にも取り組んでいます。

基本的な考え方

今後の事業を支える人材を確保するためには、従業員の多様な考え方や経験を活かせる組織づくりが不可欠です。ダイハツは、エンゲージメントの向上を重視し、「人」を中心にした業務改革を進めています。今後も、制度の見直しや教育施策の改善を段階的かつ継続的に進めていきます。

取り組み

研修体系

各階層に必要な知識・スキルを習得できる研修体系を整備しています。新任者を対象とした必須研修や、希望に応じて受講ができる選択型研修に加え、自己啓発支援としてオンライン学習サービスを導入しています。

研修種別

研修名	概要
企業階層別研修	目指すべき従業員像の実現に向け、普遍的な価値観や心構え、基本となるスキルを継続して学ぶ
役割別研修	ダイハツのマネジメントが役割を果たすために必要な心構え、知識、スキルを学ぶ
選択型研修	自身のキャリアプラン実現や自業務の問題解決に必要なスキルを必要な時に学ぶ

企業階層別研修 受講人数・時間(2025年度実績)

対象者	受講者数	教育時間 (1人当たり)	内容
新入社員	158	312.9	ビジネススキルの基礎、会社概要、社内ルールなど
キャリア入社者	403	12.25	会社概要、社内ルールなど
新任主任・管理職	526	21	役割認識、人材育成、マネジメントスキル、コンプライアンス、コミュニケーションなど
評価者	303	7.5	評価制度概要、目標設定および評価フィードバックなど

〈対象範囲〉ダイハツ工業単体

基本的な考え方

ダイハツは、従業員の安全と健康の確保は企業活動の基盤であり、最も重要な経営課題の一つであると考えています。そして、安全衛生の3要素である「人」「物」「管理」がいずれも欠けてはならないという観点から、災害ゼロを目標に「安全に強い人づくり」「設備や取り扱い材料の安全対策」「きめ細かい安全管理」を進めています。また、従業員がいきいきと働くために、心身の健康はとても大切です。その支援として、健康診断・生活指導・健康相談・メンタルヘルス研修・職場復帰支援プログラムなどを行っています。これらを通じて、従業員一人ひとりが自己の健康管理に努めることを推進しています。

健康経営優良法人

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践するダイハツの「健康経営」が評価され、経済産業省の「健康経営優良法人認定制度^{*}」に基づく、健康経



※地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する制度

安全衛生管理

体制とマネジメント

ダイハツでは、安全衛生管理水準の継続的な向上を目指し、厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」を参考に、労働安全衛生マネジメントシステムを構築しています。法令や社内規定の順守に加え、定期的な内部監査や、危険作業に対するリスクアセスメントを通じて、作業の安全化に取り組んでいます。

リスクアセスメントは、新規に導入する設備や工程を対象とするものと、既存工程の設備や作業方法を対象とするものの2種類があります。いずれも、危険性や有害性を調査し、リスクの低減を図る取り組みです。

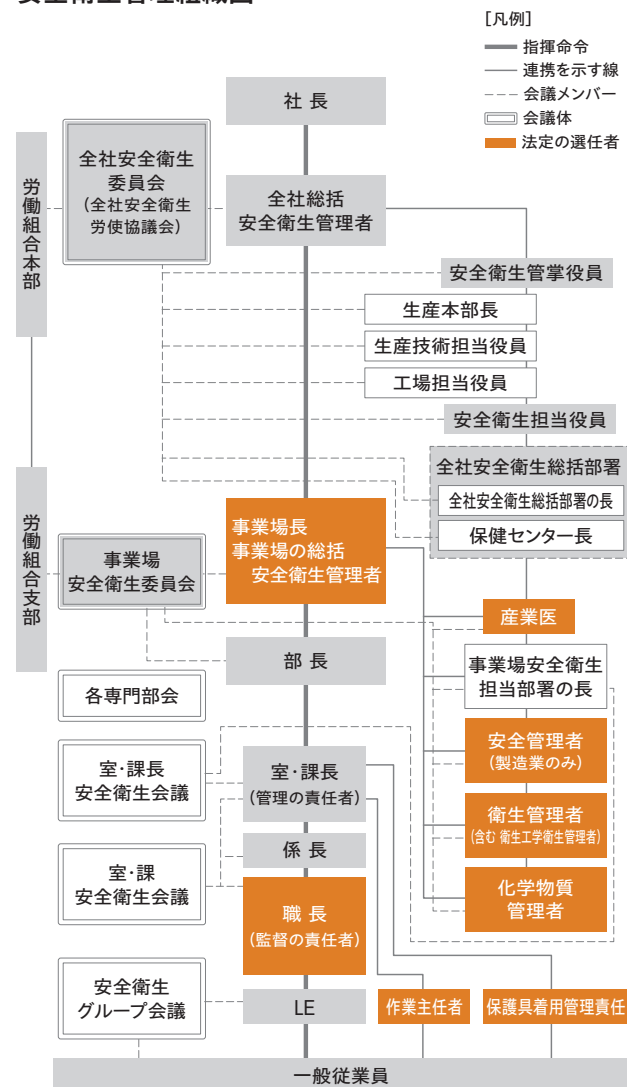
営優良法人に認定されています。今後も、従業員が心身ともに健康に働ける環境づくりに努め、企業価値の向上につなげていきます。

笑顔の会社、働きたい会社へ、
安全と健康ファーストに
取り組んで行くことを宣言します。

ダイハツ工業株式会社
代表取締役社長
井上 雅宏



安全衛生管理組織図



SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1

ダイハツ工業とは

SECTION 2

ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3

ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4

環境

SECTION 5

社会

SECTION 6

コーポレートガバナンス

安全衛生管理

安全衛生教育

新入社員や新任の管理・監督者、また、危険性や有害性が懸念される業務に従事する従業員への安全衛生教育を規定として定め、適正に実施しています。また、労働安全衛生法で定められた危険性の高い業務以外にも、「異常処置許可作業」など社内で独自に定めた業務も加え、教育を修了した有資格者だけがその業務に従事することができる「指名業務制度」を運用しています。



安全衛生に関する研修を適正に実施

協力会社従業員の安全確保

ダイハツグループの従業員だけでなく、構内で建物の建設や補修工事、設備の清掃やメンテナンス工事などを請け負っていただいている協力会社の従業員も含めて、労働災害の防止活動を行っています。特に、火災や高い場所からの墜落など、ひとたび事故が起こると重大な結果に結びつきやすいこれらの工事に対しては、構内工事での安全に関する規程を定めて、工事の計画時点から協力会社にリスクアセスメントに基づく安全対策を織り込んでいただくようにしています。また、協力会社による「ダイハツ工業安全衛生協力会」を組織し、安全活動の取り組みなどの情報共有や「危険な方法で作業が行われていないか」をダイハツの工事計画部署と協力して組織する安全パトロールチームで巡回確認するなど、工事の事故や災害防止に努めています。

業務災害・傷病

労働災害・傷病の撲滅に向けた取り組みを重ねています。

2025年度実績

国内事業所災害件数	13件
死亡件数	0件
総災害度数率	0.48※1
休業災害度数率	0.07※2
海外事業所災害件数	6件
死亡災害件数	0件

$$\text{※1 災害度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間}} \times 100\text{万}$$

$$\text{※2 休業災害度数率} = \frac{\text{休業災害件数}}{\text{延べ実労働時間}} \times 100\text{万}$$

 **WEB**：健康経営取り組みによる各種実績

SECTION 5

社会

50 品質保証

54 ダイハツのクルマづくり

55 製品安全

59 DX推進

60 人権

62 ダイバーシティ&インクルージョン

65 人材育成

67 安全・健康

70 社会貢献

トップメッセージ

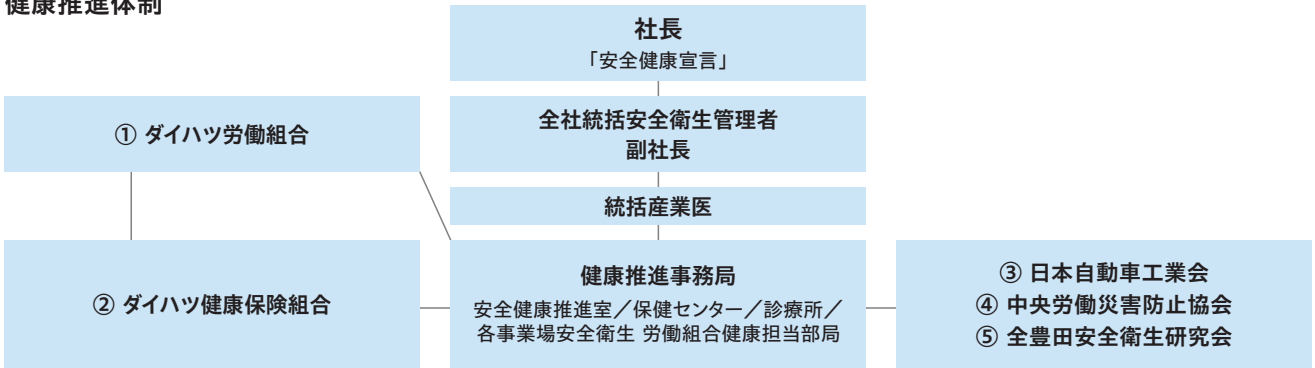
SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

健康

健康経営に取り組むにあたり、既存の健康データ（健康診断結果、ストレスチェックなど）を用いて「見える化」し現状把握を行っています。そして、使命である「お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする」を目指すため、健康経営目標と達成プロセスを戦略マップとして明確化しています。さらに、経営トップの後押しにより活動の推進力を高め、健康経営の浸透と定着を進めています。

また、広く取引先様に対して、「①健康経営の重要性 ②健康経営の進め方 ③ダイハツの取り組みと効果」を共有し、健康経営を推奨しています。

健康推進体制



健康推進企画・フォロー	全社安全衛生労使協議会（年2回）、経営会議、各事業場安全衛生委員会（毎月）
健康推進活動・イベント	健康診断（定期・特殊・重点）、保健指導、通院・紹介状フォロー 健康イベント・研修・eラーニング、メンタルサポート、両立支援、禁煙支援、海外外向者支援、ストレスチェック、健康チャレンジ8

労使で進める安全健康活動

魅力ある会社、魅力ある職場づくりに向けて、労使一体となって進めています。

各職場の労使での話し合いの場である、「職場懇談会」内で具体的な取り組みについて協議を行ったうえで、心身ともに健全に働くことができる環境づくりに向けて、各職場が主体的に取り組んでいます。

健康施策

研修名	主な取り組み
健康診断	健康診断・保健指導（年1回）の社内実施
健康づくり	生活習慣の改善に取り組む 「健康チャレンジ8（エイト）」を実施（年2回）
受動喫煙対策	2024年度から敷地内禁煙を開始
食育	認定基準を満たした「バランスメニュー」の提供と、セミナーの開催
健康教育	新入社員研修、新任監督者研修、節目健康教育の実施など
治療と仕事の両立支援	特別休暇、時短勤務制度などの整備
メンタルヘルス対策	ストレスチェック（年1回）、メンタルヘルス研修の実施。メンタルヘルス相談窓口設置
感染症対策	社内規準に基づく感染予防と職場での継続的なサポート

 **WEB**：健康経営取り組みによる各種実績

SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス



基本的な考え方

ダイハツは、ステークホルダーとの対話と共創を通じて、社会課題の解決と地域の持続的発展に貢献していきます。地域の皆様に寄り添う親しみあるブランドを目指し、従業員一人ひとりが主体的に社会貢献活動に取り組んでいます。

主な社会貢献活動

2025年の活動実績(国内)

分野	プログラム名	活動の概要
地域社会	福祉介護・運行管理システム「らくびた送迎」	2025年リニューアルの運行管理システムで、複雑な送迎スタイルにも対応
	福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」	自治体主導では新たな2地域で実証取り組み、民間団体主導では複数エリアで運行開始
	竜王町バイオガスプロジェクト	竜王町と連携しバイオガス実証を継続推進
	車両貸与	一定の条件を満たす子育て世帯に対し車両を3年間無償貸与
	地域イベント協賛・支援	地域祭り、カーニバル、駐車場開放、マラソン給水ボランティアなど
	災害支援・防災ボランティア	災害ボランティアコーディネーター養成講座・研修、災害対応車両展示、災害避難所支援、消防署協力隊など
人材育成	体験教室・出前授業	小学校へのものづくり体験教室、デザイン教室、オンライン出前授業
	職業体験・職場見学	特別支援学校職業体験、中学生のトライやるウィーク、学生フォーミュラ支援
	教育・講演会	キャリアモデル授業、科学探究講演会、探求学習プロジェクト
社会福祉／医療福祉	献血活動	社員および地域での献血会開催・参加
	福祉施設支援・ボランティア協力	イベント協力、マタニティステッカー広告、販促物寄付など
交通安全	交通安全教室・啓発活動	交通安全教室開催、交通安全ラリー、白バイ隊講習、交通事故遺児支援
	交通安全立哨活動	小学校や工場周辺での交通安全立しよう指導
環境	クリーンアップ活動	事業所周辺、河川敷、地域の清掃活動
	生物多様性保全・環境学習	ビオトープ保全、環境学習会、森林保全活動、植樹・緑化プログラム開催
	環境パトロール・調査会	地域代表者を招いた敷地内パトロール、環境調査会
文化芸術	劇団・音楽祭・花火大会・芸術支援	音楽祭協力、花火大会支援、芸術写真家プロジェクト協力
その他	会費・寄付	各種会費・寄付

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

- トップメッセージ
- SECTION 1
ダイハツ工業とは
- SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー
- SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ
- SECTION 4
環境
- SECTION 5
社会
- SECTION 6
コーポレートガバナンス

主な社会貢献活動

2025年の活動実績（海外）

国名	分野	プログラム名	内容	実施会社
インドネシア	地域社会	ボランティア協力	リサイクル材料を用いた敷石製造や、複数の村でのゴミバンク運営など、地域住民の生活の質向上へ取り組み	ADM ^{※1}
		医療施設支援	地域保健所の支援、医療団体と協力して、無料健康診断、予防接種、各種研修など、地域住民の健康水準向上への取り組み	ADM
		福祉施設支援	孤児院への従業員の私物寄付	DDMI ^{※2}
			レバラン前の地域団体への生活必需品の寄贈	DDMI
		車両寄贈	車両寄贈で、教育と地域福祉の強化を支援	ADM
	人材育成	キャリア教育	研修プログラムの構築、指導・育成、設備支援など、職業学校（SMK）の教育水準向上に注力	ADM
			CVT授業の提供、拡充	DDMI
	環境	生物多様性保全・環境学習	植樹・樹苗を寄贈など、植樹・緑化プログラムへの取り組み	ADM
			ウミガメとその生息地の保護と保護活動の教育支援	ADM
	環境保全	環境保全	環境保全の一環とし、ジャワ西部のコミュニティに対して合計10,600Wp（標準試験条件における最大出力）の太陽光パネル設置を寄付	ADM
マレーシア	地域社会	災害支援・防災ボランティア	サバ州ペナパンの土砂崩れ被災者への災害支援	プロドゥア ^{※3}
		地域イベント協賛・支援	イベント会場や地域を巡回し、車両点検・軽整備・相談サービス	プロドゥア
		医療施設支援	マラヤ大学医療センター（PPUM）へ遊び場と記念品を寄贈	プロドゥア
			医療機関への機器寄贈	プロドゥア
		福祉施設支援	チャリティ施設の子どもと一緒にのハリラヤ（復活祭）ショッピングツアー	プロドゥア
			慈善団体への寄付贈呈	プロドゥア
		クリーンアップ活動	環境保全イベント「スボGOMIビーチバトル」開催	DPEM ^{※4}
	環境	生物多様性保全・環境学習	環境保全イベント「第7回プロドゥアマングローブ植樹プログラム/ウミガメの赤ちゃん放流プログラム」を実施	プロドゥア

※1 PT Astra Daihatsu Motor

※2 PT Daihatsu Drivetrain Manufacturing Indonesia

※3 プロドゥアグループ（Perusahaan Otomobil Kedua Sdn. Bhd., Perodua Auto Corporation Sdn. Bhd., Perodua Manufacturing Sdn.Bhd., Perodua Engine Manufacturing Sdn. Bhd., Perodua Global Manufacturing Sdn. Bhd., Perodua Sales Sdn. Bhd.）

※4 Daihatsu Perodua Engine Manufacturing Sdn. Bhd.

SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

- トップメッセージ
- SECTION 1
ダイハツ工業とは
- SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー
- SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ
- SECTION 4
環境
- SECTION 5
社会
- SECTION 6
コーポレートガバナンス

主な社会貢献活動

活動事例紹介(国内)

福祉介護・運行管理システム「らくびた送迎」

「らくびた送迎」は、通所介護施設や送迎業務を担うさまざまな団体でご導入いただける運行管理システムです。通所介護施設の送迎業務は施設業務の約3割を占める状況にあり、介護職員の約6割が心理的負担を感じています。「らくびた送迎」はクラウドシステムとスマホアプリにより従来の属人的でアナログな送迎業務を変え、送迎前・送迎中・送迎後の各シーンのお悩みを解決することで介護現場の生産性向上に寄与するサービスです。送迎計画担当者・ドライバー・管理者、そしてご利用者様とご家族が喜ぶ送迎の実現をお手伝いし、すでに全国各地の多くの施設でご活用いただいています。

 **WEB**：福祉介護・運行管理システム「らくびた送迎」

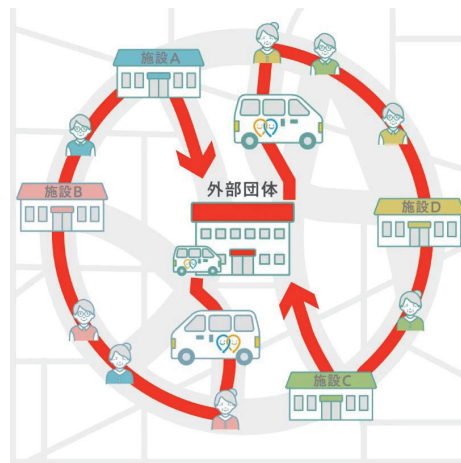


福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」

ダイハツは、「らくびた送迎」を通じ、介護現場における送迎業務の負担に着目しました。高齢化にともなう介護需要の増加により一層深刻化する介護人材不足の解決策として、各通所介護施設で行われている送迎業務を外部団体に集約し、複数の施設利用者が乗り合って各施設へ通う共同送迎モデルの検討を進め、2022年より、福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」として提供を開始しています。また、通所介護施設の送迎は朝夕に集中することから、空

き時間・空き車両を買い物や通院などの生活移動サービスにも活用できます。ダイハツは「ゴイッショ」を普及させることで、持続的で質の高い介護サービスの提供と生活移動サービスの確保に寄与することを目指しています。すでに、香川県三豊市や滋賀県野洲市、大阪府大阪市で社会実装されており、その他の複数の地域でも実証運行が行われています。

 **WEB**：福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」



SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

主な社会貢献活動

オンデマンド乗合送迎サービス「チョイソコ」※1

ダイハツは、地域密着プロジェクトの一環として、オンデマンド乗合送迎サービス「チョイソコ」を通じ、地域の交通課題の解決に取り組んでいます。会員登録した利用者の予約に応じて、最適な乗り合わせと経路を計算し目的地まで送迎する仕組みで、高齢者の移動手段の確保に加え、買い物や通院、通学・送迎など、地域ごとの多様な移動ニーズへの対応を目指しています。

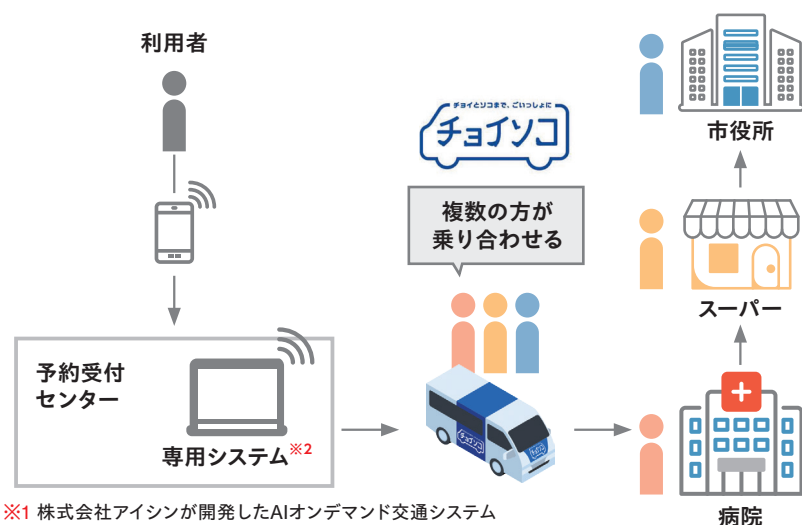
ダイハツの販売会社が自治体のワンストップ窓口となり、交通事業者やコールセンターと連携しながら、導入準備から運行後まで地域に寄り添って運用を支援しています。地域住民、自治体、交通事業者、協賛事業者が協力して、外出機会の創出や地域コミュニケーションの活性化、持続可能な地域交通の実現につなげています。

滋賀県竜王町での耕畜工連携による 地域循環の取り組み※3

ダイハツ滋賀（竜王）工場は、地元・竜王町の耕種・畜産連携に新たに参画し、近江牛の糞を活用したメタン発酵技術の開発に取り組んでいます。近江牛の糞尿からバイオガスを取り出し、工場の稼働エネルギーに利用することで脱炭素化を推進し、残渣は有機肥料として農地に還元する地域循環共生圏を目指します。バイオガスはカーボンニュートラル燃料として、工場のアルミ合金の溶解や発電に活用され

ます。発酵残渣からつくる堆肥液肥は、竜王町の農産品である米、麦、キャベツなどで実証実験中で、従来の堆肥と同等の効果が確認されています。今後は施用面積を拡大し、施用技術をさらに改良します。また、発電機の開発により地域の災害に強いレジリエンス強化にも貢献し、持続可能な地域社会づくりを支えます。そして、この取り組みを地域の方たちと一緒に育て、社会実装を目指します。

※3 耕種・畜産・工業の連携により、地域の有機資源活用を通じて持続可能な町づくりを目指す取り組み

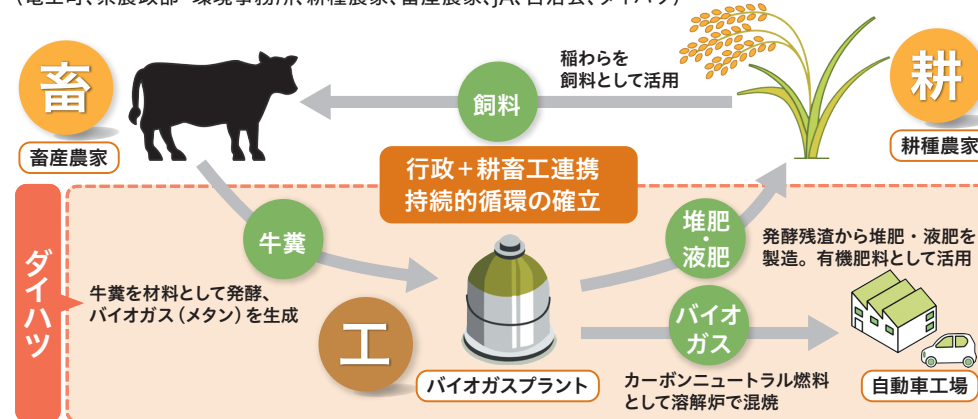


※1 株式会社アイシンが開発したAIオンデマンド交通システム

※2 専用システムが最適な経路・乗り降り順を計算します。利用者の希望を100%かなえるモノではありません。

バイオガス化プロジェクトの概要（地域内資源循環）

竜王町バイオガスプロジェクト部会で推進
(竜王町、県農政部・環境事務所、耕種農家、畜産農家、JA、自治会、ダイハツ)



SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

主な社会貢献活動

施設見学

ダイハツでは、本社に隣接のダイハツ史料展示館「Humobility World」や主要工場で施設見学を実施し、地域の皆様に、クルマづくりの考え方や取り組みを紹介しています。「Humobility[※] World」では、ダイハツの歩み、暮らしを考えるクルマづくりの思想、自動車の基本原理、安全・安心や環境に配慮した技術を体験展示で学べます。また、京都（大山崎）、滋賀（竜王）の各工場では、組立・検査ラインを見学できます。小学生の社会科見学を中心に一般の方々にも公開し、自動車産業への理解促進と地域とのつながりづくりに取り組んでいます。

※Humobility: Human（人）+mobility（モビリティ）を掛け合わせた造語



ヒューモビリティワールド



京都（大山崎）工場

ダイハツ陸上競技部

1988年に創設したダイハツ陸上競技部は、陸上競技を通じて人々に感動と勇気を届け、スポーツの普及・振興に貢献することを目的に活動しています。これまで、オリンピックや世界陸上競技選手権大会の代表選手をはじめ、多くの有力選手を輩出し、国内外の大会で実績を重ねてきました。また、本社のある池田市や隣接する川西市の小学校などで陸上教室を開催し、子どもたちをはじめ多くの方々に走ることの楽しさを伝えるとともに、地域とのつながりを深めています。



スポーツの楽しさ、大切さを伝える陸上教室

ダイハツ ものづくり体験教室

ダイハツの従業員が事業所近隣の小学校を訪問し、5年生を対象にモノづくりの大切さや楽しさを子どもたちに伝える出前教室を2015年から実施しています。教科書では伝えにくい製造工程の原理を実物の部品や工具を「見て」「触って」「使って」もらって体験できる教室として、今では年間300校を超える小学校で開催しており、年間21,000人以上の児童の皆さんが参加されています。

また、小学校以外では、各事業所周辺地域のイベントなどでも子どもたちが体験できる教室を提供しています。



金型を使って鉄板を加工するプレス体験



電動工具を使ってナットでタイヤ締付体験

SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス

主な社会貢献活動

災害支援人材の育成と派遣

ダイハツでは、災害時に地域や被災地を支える人材を育成するため、災害ボランティアコーディネーターの養成と派遣に取り組んでいます。2025年度は本社・池1地区と多田事業所で養成講座を実施し、計45人が受講しました。過去の受講者を含め全社で97人となっており、2028年度までに200人規模への拡大を目指しています。社会福祉協議会と連携し、地域との関係づくりや有事への実践力向上を図るとともに、災害復旧支援への派遣など共助・公助の取り組みも進めています。



健康安全運転講座

ダイハツの販売会社は、地域密着プロジェクトの一環として「健康安全運転講座」を通じ、地域の交通課題の解決に取り組んでいます。本講座は産（販売会社／一般社団法人日本自動車連盟（JAF）など）・官（自治体）・学（理学療法士）・民（地域住民・地域組織）の連携により、高齢化が進む地域で「いくつになっても自由に移動できる自立した生活」を支えることを目的に展開しています。講座では、理学療法士による体力測定や運動指導、認知機能維持に向けた指導に加え、販売会社による予防安全機能の体験（衝突回避支援ブレーキ機能や誤発進抑制制御機能など）やJAFによる安全運転指導を行い、参加者の安全・安心な移動を支援します。販売会社のスタッフにとっても、地域とのつながりの重要性を実感する機会となっています。



健康安全運転講座

子育て世帯への車両貸与

ダイハツは、行政と連携し、地域課題の解決に取り組んでいます。池田市の「エンゼル車提供制度」や竜王町の「ダイハツ竜の子ファミリー車提供制度」では、一定の条件を満たす子育て世帯に対し、3年間無償で車両を貸与しています。通院や送迎、買い物など日常の移動負担を軽減し、安心して暮らせる生活基盤を支える取り組みです。地域で子どもを育てやすい環境づくりを後押しし、工場立地地域の活性化や定住促進、地域とのつながり強化にもつなげています。

認知症サポーター養成講座

ダイハツでは、「お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする」という使命のもと、地域課題に向き合い行動できる人材育成を目的に、従業員向けの「認知症サポーター養成講座」を実施しています。対面式の本講座では、グループワークを通じて認知症への正しい理解を深め、認知症の人やその家族を偏見なく見守る「応援者」として、日常の中でできる支援を学びます。これまで全社の22%が受講しており、助け合いの輪を広げながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

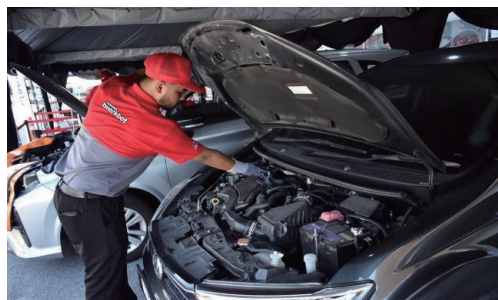
SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

主な社会貢献活動

活動事例紹介(海外)

プロドゥアTweckbotによる巡回点検サービス

プロドゥアでは、イベント会場や地域を巡回し、車両点検や軽整備、相談対応を行う「プロドゥアTweckbot」を展開しています。2025年は、Lotus's各店を会場に複数回実施し、無料の50項目点検を通じて車両の状態確認を行うとともに、道路安全や環境に関する情報発信も行いました。地域に近い場所で気軽にサービスを受けられる機会を提供し、お客様の安全・安心なカーライフを支えています。



CVT授業の提供、拡充

DDMIでは、地域の人材育成と雇用創出に向け、現地の工業高校と連携したCVT（無段変速機）授業の提供・拡充を進めています。授業では、CVTの構造や分解・組み付けの基礎に加え、2S、安全、規律など、モノづくりに必要な基本を学びます。2025年は既設校で第1期生36人が修了し、新たに私立高校も対象に加えました。この授業をきつ

かけに、DDMIに入社し、活躍されている受講者もいます。今後、教員向け研修や工場見学も実施し、学校との連携を深めながら、現地に根差した人材育成と採用基盤の強化につなげています。



地域の健康づくり支援

ADMでは、地域住民の健康水準向上に向けて、地域の保健所や医療団体と連携した健康支援活動を進めています。無料健康診断や予防接種、各種研修の実施に加え、工場周辺地域の統合保健ポスト「Posyandu」に対する寄付や、運営に必要な備品・医療機材の支援も行っています。また、幹部やスタッフ向けの研修、移動診療による健康チェックなども通じて、地域に必要な医療・保健サービスの充実を後押ししています。継続的な支援を通じて、地域の暮らしを支える取り組みにつなげています。



スポGOMIビーチバトルの開催

DPEMでは、環境保全を促進するイベントとして、マレーシア・ポートディクソンのビーチで初めて「スポGOMIビーチバトル」を開催しました。スポGOMIは、チームで制限時間内にゴミを拾い、その量や分別の正確さを競う取り組みです。当日は19チームが参加し、30分間でビーチのゴミを集めながら分別を行いました。海岸の美化に加え、参加者の環境意識向上やチームワークの醸成にもつながる活動として、今後もCSRの一環として継続していきます。



SECTION 5

社会

- 50 品質保証
- 54 ダイハツのクルマづくり
- 55 製品安全
- 59 DX推進
- 60 人権
- 62 ダイバーシティ&インクルージョン
- 65 人材育成
- 67 安全・健康
- 70 社会貢献

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス